令和2年度　学校評価

1　教育目標

かがやく子ども、笑顔いっぱいの学校
～共に学び合う中で、自ら考え行動できる三原っ子の育成～

2　学校経営方針

長崎県及び市教育方針，長崎市第4次総合計画を踏まえ，一人一人の子どもたちの個性等をじっくりと見つめ，集団生活の中で，そのよさをよりよく伸ばしながら，将来，一人の社会人として責任を自覚し，自立した大人として成長していくことを目指して本校の教育を推進する。そのために，全教職員が一丸となり，自ら考え，自信を持って行動できる「かがやく子ども」の姿を描きながら，子ども，保護者，地域，教職員が信頼関係の中で，「笑顔いっぱい」になれる，安心感，所属感，満足感を感じられる学校経営を行う。

3　重点目標

◆特別支援教育の充実を意識した「学級経営」の実現
◆学力向上をめざした「わかる授業」の実現
◆生活指導を踏まえた「学習規律」の定着
◆働き方改革をめざした「校務の再構築」

4　自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果（肯定的割合・%） 児童生徒	保護者	教職員	分析及び改善策
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	95	100	100	働き方改革の視点として、スクラップ＆ビルドが言われており，3学期の服務規律委員会や職員会議で、次年度見直しを行う予定。前年度までの踏襲ではなく，本当にそれが必要か，縮小や廃止をしても影響はないかなど，多様な観点から見直しを図り，行事や業務の見直しを全職員で行っていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	93	99	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			90	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			80	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	97	97	100	「あいさつ・返事」「早寝早起き朝ごはん」「履き物そろえ」については，周知が随分できてきた。行動が習慣になるように，合言葉として指導を続けていく。平和教育については，低学年からの学習で意識も高いが，いじめ対策，人権教育については，高学年になるにしたがって，「自分からは相談がしにくい」児童も増えてきていることが考えられる。また，子どもの中には思いを伝えることが苦手な児童もいるため，観察だけでなく，アンケートや日記や日々の雑談など，アンテナをしっかり張り巡らせるよう，今後も取り組んでいく。
		挨拶をよくしている	93	89	100	
		「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	96	94	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	93	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92	92	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	99	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	97	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98	92	80	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	98	90	90	家庭と協力しながら家庭学習の充実に取り組むことは，本校の大きな課題の一つであり，懇談会の話題や学級通信での学び方が身に付いている児童の紹介など，さらに啓発に努めていく。また，キャリア教育については，キャリアパスポートも本年度より始まっているが，保護者への周知が十分ではないところがある。家庭学習と併せて，機会をとらえて啓発していきながら，親子でも現段階で必要なキャリアについて考えていくように働きかける。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	90	90	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	85	90	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	90	76	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	96	100	早寝早起き朝ごはんについては、保護者と児童の認識の差が出ている。学校でできることとしては、授業や給食時などを通して,「規則正しい生活習慣の定着」に向けて,子どもたちにバランスの良い食事をする大切さをしっかり意識付けしていく。また,指導をした内容を,通信や懇談会等で,家庭に知らせていくことで考えていく機会を提供する。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	89	92	100	
		体力向上に努めている	93	86	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	93	92	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	99	94	100	大きな事故はなかったが,衝動的に飛び出す児童がいるため,今後も継続して指導が必要である。また,『情報提供』については,業務改善のこともあるが,保護者・児童にとって下校時刻の変更に関わる行事(クラブ・委員会を含む)や懇談会の日程などは急に対応できないため,月行事を知らせる通信は毎月必ず出すようにしていく。コロナ感染症拡大の中,地域・育友会行事は開催自体ができておらず,今後質問内容を参加意欲を問うものに変更する必要があると考えている。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	92	70	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	70	92	90	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	95	93	90	環境整備については,おおむね高評価だったが,保護者からの意見で多かったのは,固定遊具がこの数年間使用できず,また撤去できていないことについてである。申請はしているが,ここ数年進まない状況を学校だよりなどで再度通知することと,市教委への働きかけを継続したい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			90	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

新学習指導要領が本格実施となり，また新型コロナウイルス感染症対策が重なり，変更も相次いだため，先の行事予定がなかなか見えない中の学校生活に，職員の負担感は大きかったと考えられる。年度当初から業務改善を行い，データの２次利用のための保管場所や約束事の確認，ZOOMの利用によるリモート集会などがようやく定着し，また，個人差はあるものの，退校時刻を意識した働き方改革も進みつつある。今年度の反省を生かし，次年度の計画に職員が参画することにより，年間を通した業務改善を行うよう計画しているところである。児童の基本的な生活習慣及び学力向上に必要な家庭学習の定着は家庭による差が大きく，年間を通して啓発していく必要がある。授業改善については，「主体的で対話的な深い学び」を意識した授業改善をコロナ感染症対策を考慮しながら，徐々に進められてきつつある。今後，一人一台のGIGAスクール構想も入ってくるため，新しい学習内容に対応していくための現職教育も今まで以上に必要になってくる。研修時間の確保が必要になってくるため，日課の変更も視野に入れ，時代や新しい生活様式に合った学びを身に付けさせるよう，今後も取り組んでいきたい。

6 学校関係者評価

以下のような質問・意見が出された。

① 特別支援学級は，具体的にどういう活動をしているのか？また，通級指導教室とは？

② 新型コロナウイルス感染症拡大による対応で，今年度は育友会活動ができないとあきらめてしまった。また，役員と管理職，担任と学年長が例年に比べ，疎遠に感じた。コロナ禍での「新しい生活様式」に対応したコミュニケーションの深め方を考えていく必要があると思う。

→校長，教頭が忙しそうに感じるので，来客対応可能時間もしくは曜日を決めてはどうか？

③ 新型コロナウイルス感染症への対応で，先の見えない不安の中，教職員は大変だったと思う。一方，前例踏襲がほぼできない中で，逆に今年だからこそできること，できたこともあるのではないか。

④ キャリア・パスポートとは？具体的にはどのようなことをするのか？

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

① 特別支援教育についての啓発

保護者だけでなく，地域の方にも現在の特別支援教育について，学校だよりやホームページ等を使ったり，会議の際に情報提供したりして，啓発していく。

② コロナ禍の三密を避ける「新しい生活様式」の中で，役員と管理職，担任と学年長が例年に比べ，疎遠に感じられたとのことだったので，「新しい生活様式」に対応したコミュニケーションについて，通常時以上に意識してとるようにする。また，「どうせできないだろう。」から「何とか工夫してできないか。」という視点で，話を進めるよう心掛ける。

③ 「新しい生活様式」を本来の学校の姿を見直すきっかけとしてとらえ，業務改善を進め，ライフワークバランスのとれた子どもたちに寄り添える学校生活になるように，業務改善を図っていく。

○ 1月27日に行われた学校訪問を受けて，三原小が「できていること」「足りないもの」を洗い出し，ベテランの味を生かしながら，『なぜ「 読む 」「書く 」「 基礎・基本 」が できないのか』を全職員で確認することで，次年度の学力向上につなげていく。